



**年頭にあたって
～さらなる質の向上を目指して～**



あけましておめでとうございます。

去年は、二月に開催されたソチオリンピックでの日本選手の活躍、テニス全米オープンでの錦織圭選手の決勝戦出場、けがをしながらも精神力で最後まで演じきったフィギュアスケートの羽生結弦選手の姿に国民がテレビの前にくぎ付けになって感動した年でした。

その一方、御嶽山の噴火で多数の方が亡くなられ、自然災害の恐ろしさを痛感した悲しい年でもありました。また、年末には消費税率引き上げの延期決定、衆議院の解散、総選挙という、今年の行方を占ううえで大きな出来事がありました。

この一連の出来事は、私たちに、精神力、危機管理、愛する心の大切さを教えてくれたように思います。

精神力

強い信念を持って物事をやり遂げようとする人は美しく、人々に感動と元気を与えます。昨年 11 月に亡くなった俳優の高倉健さんも、まさにその人であったといわれています。健さんは、生前親交のあった故比叡山延暦寺大阿闍梨酒井雄哉氏からいただいた「往く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」という言葉を心の支えにしていたことを手記に綴っています。人の往く道は精進の連続であり、苦難を耐え忍んで人生を終えても悔いはない—人生の在り方、心の持ち方を考えさせられる言葉です。

危機管理

一方、去年は、御嶽山の噴火以外にも台風や局地的大雨による災害が各地で発生し、抜本的な災害対策が求められる時代になってきました。こうした自然災害ばかりでなく、社会では昨年も企業や個人が信頼を大きく失墜する事件や出来事が数多く報道されました。

いずれも管理不十分や気の緩みから生じたものですが、これらを他山の石として、公私共に脇を締めて事にあたらねばならないと思っています。

愛する心

国民に信を問うた総選挙により新たな内閣が発足しましたが、大切なことはこの選挙で国民一人一人がこの国を愛する思い、政治への関心を強くしたかどうかだと思います。組織においても同様に、職員一人一人にその組織を愛する気持ちや当事者意識があるかどうかで組織の発展が左右されます。また、そのためには、当然組織にも個人の期待に応える愛情がなければなりません。

当院も今年全員が強い精神力と危機管理意識、愛する心を持って、新たなステージにチャレンジします。

質の向上を目指して

さて、すでにご承知の通り、昨年当院は、療養病床 20 床を回復期リハビリテーション病床に変更する病床の再編成を行ったほか、外来診療ゾーンの移設オープン、リハビリテーションセンターの整備、通所リハビリテーションの拡充等を行いました。これにより、入院、外来、リハビリ、介護の各部門において今後の 30 年を力強く歩むためのハード面の整備がほぼ完了しました。しかし、「仏作って魂入れず」にならないよう、今年は作った仏に魂を入れ、医療、介護の質をさらに充実させていきます。そのために、全員が一致団結し精進する覚悟ですので、変わらぬご支援を切にお願い申し上げます。

一昨年来の増改築工事で、皆様には大変ご不便とご迷惑をおかけしており申し訳ございません。

二月には工事が終了する予定ですので、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成二七年元旦 院長 坂口 昇

琵琶湖中央病院の組織改編

平成 27 年 1 月 1 日付けで次の組織改編がありました。

- ・介護事業部が新設されました
- ・地域連携室が地域連携部へと名称変更されました